



年 組 名前

道新 ワークシート

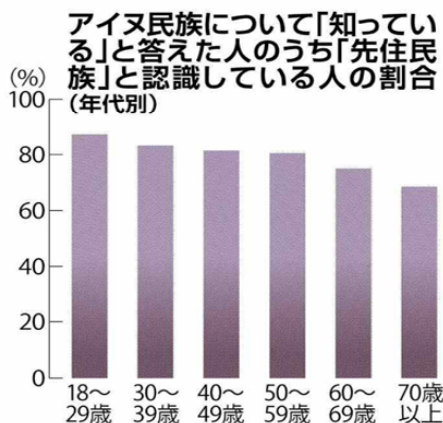
アイヌ民族は「先住民族」7割超

内閣府世論調査 5年前より増

一方、年間100万人の来場目標を掲げる民族共生象徴空間の認知度は、設置決定直後に行われた前回より低下し、「知っている」の約半数の4・7%も「言葉だけは聞いたことがある」だった。また、重視す

べきアイヌ民族施策について複数回答で尋ねたところ「歴史・文化の知識を深める学校教育」が45・4%と最多で、「広報活動」が42・5%、「文化継承の人材育成」が30・2%と続いた。調査は13年12月に公表した前回以来2度目。6月28日から7月8日にかけて全国の18歳以上3千人を対象に面接方式で実施し、1710人から回答を得た。
(広田孝明)

内閣府は17日、アイヌ民族政策に関する全国世論調査の結果を発表した。アイヌ民族を「知っている」と答えた人は2013年の前回調査比1・1割減の94・2%で、このうち「先住民族」だと知っているのは同9・0割増の77・3%。全体の7割以上が認識している計算になる。一方、20年4月に胆振管内白老町に開設するアイヌ文化の復興拠点「民族共生象徴空間」を知っている人は同3・4割減の9・2%で、認知度の低さが浮き彫りになった。



「象徴空間」認知度は9%

道内分では、アイヌ民族を知っている人は98・7% (前回比1・3割増)、このうち先住民族と認識しているのは88・0% (同1・1割増) で、象徴空間を知っている人は39・5% (同3・8割増)。いずれも全国を上回った。

調査全体で見ると、先住民族と知っていた人の年代別では18~29歳が87・2%と最も高く、30~39歳が83・2%で続いた。年齢層が高いほど低くなり、70歳以上は68・5%だった。

若年層の認知割合が高い理由について、内閣府は1998年に学習指導要領が改訂され、歴史の教科書などにアイヌ民族の記述が加えられたことが奏功したと分析。アイヌ民族の少女がヒロインの漫画「ゴールデ

①見出しと本文にある「象徴空間」とはどのような施設ですか。記事を参考に書きなさい。

②アイヌ文化の復興を目指す施策を広く知ってもらい、有効に活用するために、どのようなことに取り組みればよいか答えなさい。